



1996-97年度 RI テーマ

*Luis B. Zia*  
 ルイス・ビセン・ジアイ  
 1996-97 RI 会長

## ■■■ 築け未来を 行動力と先見の眼で ■■■

第2560地区  
 ガバナー——吉田 昭 平  
 会 長——捧 賢 一  
 会長エレクト——五十嵐 総 一  
 副 会 長——細 井 増 雄  
 幹 事——五十嵐 昭 一  
 副 幹 事——佐 野 勝 栄  
 S A A——菊 池 涉  
 副 S A A——山 浦 日出夫

例 会 日——毎週水曜日 12:30 ~  
 例会場及び——三条市旭町 2-5-10  
 事 務 局——三条信用金庫本店内  
 例 会 場——TEL 35-3311  
 事 務 局——TEL 35-3477  
 FAX 32-7095

本日出席会員数	79名中 56名
先々週出席率	92.00%

### ヴィジター

三条南より  
 飯山勝義さん

### 先週のメイクアップ

2/13 燕へ  
 近藤雄介さん  
 2/15 大泉RC30周年へ  
 五十嵐昭一さん

2/17 三条南へ  
 小林九満太さん、佐藤吉平さん、  
 斎藤弘文さん、五十嵐総一さん  
 2/18 三条北へ  
 加藤紋次郎さん、外山一郎さん、  
 斎藤隆さん、石橋育於さん、  
 渋谷健一さん、広岡豊作さん、  
 高畑 昭さん、野村竹三郎さん、  
 斎藤弘文さん、丸山行彦さん、  
 林 光輝さん、佐藤 武さん

## 会長挨拶

細井増雄副会長



先日、北陸山中温泉へ行って来ました。目的は全国の関係業者の集まりで、まあ、温泉に入って心と体の疲れを取り、ゆっくりと話し合いをしようと言うことです。

近くに三国町という所がありまして、この前のタンカー転覆事故で、油が浜に流れついたと言うことですが、それ以来ホテル、旅館の客の入り激減していると言うことです。ニュースを見て、聞いて「美味しい魚介類が食べられなくなったのでは…」と、キャンセルが続いているとのこと。お客の立場からみれば、その様になるのですが、実際漁業の方から見ると魚は沖合いで採るものから影響は無いのだそうです。

私が泊まったのは、日曜の夜から月曜にかけてですが、半分位の入りだったと思います。ですが、月曜から木曜の普通の日にはガラガラだそうです。ひどい旅館は、700人収容の処、30人位の予約しかないそうです。

「実際は美味しい魚介類が食べられるんだと言うことをテレビ等で宣伝してもらえると有難いことなんだが」と現地の方々は希望していただける様です。

私の場合は、当日美味しいグルメを楽しんでまいりました。

## 幹事報告

五十嵐(昭)幹事

◎三条市特殊教育研究協議会より  
進級を祝う会ご出席御礼状がとどいております。

◎伊勢崎中央RCより  
クラブ会長エレクト研修セミナー開催のご案内がとどいております。

とき 4月26日(土)

AM10:00~

ところ 高崎サンパレス

◎例会変更のお知らせ!

吉田RC——

3月7日(金)→8日(土)~9日(日)

一泊移動例会 瀬波温泉

◎三条クリーン協議会より

第1回担当者会議開催のご案内がとどいております。

とき 2月24日(月) 正午~

ところ 三条中央公民館

## ニコニコBOX



佐々木昌敏さん

高波社長さんの卓話を楽しみに……。

小柳直人さん

高波会員の卓話楽しみにしています。

三堀正純さん

高波会員のお元気な顔を拝見して……

卓話楽しみにしております。

古澤富雄さん

高波さん、卓話ご苦労様です。

「早退」すみません。

榎本 勝さん

高波さん、本日卓話御苦労様です。

五十嵐昭一さん

高波さん、本日の卓話御苦労さまです。

藤田紘一さん

確定申告の時季となりました。風邪に注意して頑張るつもりです。

高森章仁さん

世界の遺産、アンコールワットを観て来ました。素晴らしいものです。

松縄 弘さん

高波会員の卓話御苦労様です。

所用の為、早退させて戴きます。

加藤紋次郎さん

先週一週間心身共にリフレッシュの為、フィリピン(マニラ)に行ってきました。誠にさわやかです。

本日は早退させて頂きます。

川又嘉瑞範さん

オーストラリア(メルボルン)にアーム産業駐在事務所を開設しました。

1年半かかりました。

高波会員の卓話御苦労様です。

高橋一夫さん

御陰様で潟東の物流センターが完成いたしました。



2月19日分

¥24,000

## 卓話

国際交流協会の発足と  
中国人研修生の受入れ

高波久雄会員



国際交流協会の発足については、1990年頃から検討を重ねてきた。

当時、国際化が急速に進み、海外の情報を得る事は必要不可欠になってきた。

また、バブルの時代であり、人材不足が

深刻な問題となっていた。国際交流協会の事業の一つとして、外国人研修生受入れについて検討していたこともあり、国際交流や国際理解、又情報収集にも役立つものと考えていた。

同年6月、入管法の改正に伴い、外国人研修生の受入れ条件が緩和された。会議所や会員企業で研修生の受入れを本格的に検討し始めた。

・1991年6月、いろいろ検討の後、三条国際交流協会が発足した。

主な、事業内容(目的)は、

- ①海外事業の調査研究
- ②国際交流の推進
- ③海外投資(合弁や委託加工等)
- ④日系人の雇用
- ⑤外国人研修生の受入れ

・1991年8月 鈴木商工会議所会頭を団長に第1回目の訪中を行った(23名)。

事前に紹介を受け、連絡が十分であったため、歓迎を受けた。

湖北省の省都・武漢にて韓副省長と会談をした。

鄂州市と三条商工会議所との間で「研修生の派遣・受入に関する協議書」調印研修生受入れ事業の具体的な第一歩が始まった。

帰国後、三条市に訪中の報告と研修生受入れに関する協力依頼をし、受入れの具体的な検討、交渉を始めた。

・11月 第2回目の訪中を行い、鄂州市と「受入契約書」の調印を行うと共に第一次研修生の面接を行った。

・12月 鄂州市 黄市長他6名が来条、三条市議会で初の外国人要人の挨拶を行った。

「受入契約書」を鄂州市と商工会議所が正式調印、研修生受入事業がスタートした。

・1992(H4)年3月 第1次研修生41名が、神戸港より来日、研修生受入事業がスタートした。

・8月 第1回目の「三条市民日中友好の翼」事業を開始、定員120名を上回る133名が参加した。経済だけでなく、行政、教育、スポーツ、文化一般、各分野における交流が始まる。

第1次研修生の家族との交流や、第2次研修生の面接も行い、事業の継続をはかった。

・その後、友好の翼も昨年で第5回を数え、延べ600名以上の三条市民が訪中している。

・研修生受入事業も現在の第5次研修生を含め250名もの鄂州市民が一年間三条市で研修を行っており、大変な交流であり、すばらしい実績ができた。

### 研修事業におけるトラブル

今考えると、お互いの違い(歴史・文化・環境・習慣等)が解らず誤解を招いたものが殆どであり、現在はみな解決できるものであるが。

・声が大きい——

通常の話し声(特に中国人同士は)が大きく、言葉の意味も解らない為、けんかでもしているかと思われる。夜も

大きな声の為、近所から苦情が出た。

・ゴミの収集——

曜日やゴミの分別がなく苦情が出た。

・上履と下履の区別が良くできない——  
中国は殆ど土間であり履物を変える習慣がない為、土足で板の間に上がった上履のスリッパで外へ出たりする。

・万年布団——

中国はベットの為、布団の上げ下ろしの習慣が無い。寒い時は、押し入れに敷いたままふすまを閉めて寝る。

・外で立って食事をする——

中国では、家でも、勤務先でも又外食(レストランもあるが屋台のような店も多い)でも立って食べる習慣が多い。日常的である。

・やたらつばをはく、タバコやゴミを外にすてる。

・自転車の乗り方、交差点での進行方法、又スピードを出すなどやや乱暴である。

中国では日本と左右反対、又歩行者も含め平気で道路を横断したり車の前後を通るのは日常茶飯事である。

・日本人のちょっとした善意が、逆に不平等だととられる。

・どんな店に行っても値切る。中国では通常、交渉上手は自慢になる。

日本人もするが、かなり極端であり、しばしば誤解を招く。

### 特に困ったこと

〔病氣・怪我〕——

現在、鄂州市でも来日前に健康診断を厳しくしている。入国後、三条でも再

度健康診断をし、研修が無理なら帰国させている。

・研修生の足となっている自転車での事故が多い。

・大怪我をすることはまれである。

・特に困るのは、

ホームシック→精神不安定→ノイローゼ  
毎回何名かは一時的に精神不安定になる。特に3ヶ月後、半年後に多く見られる。

病氣・怪我の治療費は海外傷害保険に加入、後日返金されるが外国人であるため、入院・通院の世話が大変負担になる。

殆どの人が皆健康で1年間研修している。

### 研修事業を行って良かった事

日本と違った考え方、習慣などが実生活を通じて理解できるようになった。

例1) 大変自己主張が強い。相手がどの様に思っているかよりも、自分が正当だと思う事は、はっきりと主張する。それに対する答えがあいまいであると、誤解されたり、信用を失ったりする。又、問題がこじれたりする。即答できない場合も、できるだけ速やかに返事をしてやる事。

良い事は良い、悪いことは悪い、とはっきりする。

例2) 個人主義的である。集団行動や協調性にやや欠ける。

家族や親友は別だが、自分は自

分、他人は他人の考え。

特に市場経済導入後は、一般市民にも金権主義的考えが浸透、お金に対する執着心は強い。

一方では、平等主義（個人主義の裏返し？）も強く、待遇などは、他と比較し低いと即苦情となる。

三条市民全体に中国人（外国人）に対する理解が深まった。

### 各種の交流

- 三条市内に外国人がいる事はめずらしくない。
- 研修生と個人的に交流を行っている人も多い。
- 中国語講座も人気が高い。

国際交流協会、中央公民館、地場産センター、チャイナネットワーク

- 行政——  
国際交流協会がリードしてきた形になったが、広く市民との交流が深まり、友好都市の締結に至った。

- 教育——  
友好の翼で毎年7～8名の小学生が訪中し、交流を行っている小学校の各行事に招かれ、参加している。

又、国際理解教育の一貫として、毎年小学生との交流を図っている。

- 文化——  
コーラスグループと歌の交流、演奏会やイベントの見学

又、囲碁や絵画のクラブなどに参加特に印象に残ると言うホームステイ

の実施

- スポーツ——  
サッカーや卓球などの交流試合  
バドミントンや柔道クラブなどに参加
- 一般——  
地区の夏祭や運動会、稲刈りの体験  
各イベントへの参加、料理教室及び日中料理交換会
- 各企業——  
企業の行事（夏忘れ・忘新年会）や、社員個人との交流  
その他、国際交流に積極的に交流し、又ご協力いただいているグループ  
チャイナネットワーク、国際交流ネットワーク、国際ボランティアの会、チャイナナウ、紫苑コーラスetc。

### 鄂州市民との真の交流、中国の国と人との理解

- 特に研修生及び研修生家族とは心からの交流ができた。
- 友好の翼で鄂州市に行く度に、家族（奥さん）は研修生を思い涙を流す。

預かった手紙やお土産を渡し、三条新聞の研修生記事を見せるとなつかしきでポロポロ涙を流す。私も心情を察すると、思わず涙が出てしまう。

- 又、三条で研修中の研修生に男の子が生まれた。私に名前を付けてくれと言われ、私の一字をとって名前を付けてやった事もあります。鄂州市には孫がいると同じです。

※とにかく、交流の第一歩は、相手と自分とは違うという事をまず知る事。

それからほんとうの理解が始まり、つき合う度に理解が深まっていく。

中国人の信頼を得ることは簡単ではないが、一度信用すると裏切らないのも彼らの性格である。

又、理解と信頼が出来上がるから、中国進出も可能になるのである。

現在は、中国人（特に研修生）に対しては、日本から技術や管理、経済のしくみ等、教えるべき事がたくさんあります。

ただ、久しぶりにヨーロッパを訪問して、改めて感じた事は、日本はヨーロッ

パに学ぶ事がまだまだたくさんあるという事です。

特に今回は、デザイン、中でもイタリアのデザインには、日本には無いすばらしいものがあると強く感じました。

ヨーロッパには、伝統的なすばらしいものもあるが、日本人にはなかなか出せない斬新さがあります。

今後イタリア人デザイナーとの交流を図り、大いにヨーロッパに学ぼうと考えています。

### 例会案内

三条RC	3月5日例会	卓話	広岡豊作会員
	3月12日例会	卓話	「グッバイ英語コンプレックス」 (株)新日本ファミリークラブ 川合章夫殿

### メイクアップをどうぞ

三条南RC	3月3日例会	会員卓話
	3月10日例会	会員卓話
三条北RC	3月4日例会	会員卓話
	3月11日例会	会員卓話
加茂RC	3月6日例会	会員卓話
	3月13日卓話	会員卓話
燕RC	3月6日例会	会員卓話
	3月13日例会	卓話 (財)生活用品振興センター燕出張所所長 吉田勝利殿
見附RC	3月6日例会	会員卓話
	3月13日例会	会員卓話

